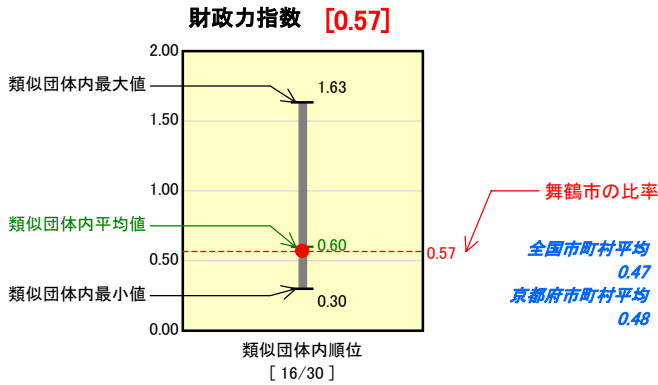


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

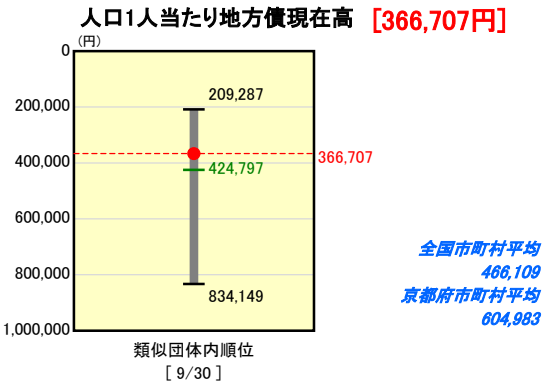
京都府 舞鶴市

人口	92,037人(H17.3.31現在)
面積	342.14 km ²
歳入総額	34,356,754千円
歳出総額	33,923,444千円
実質収支	43,753千円

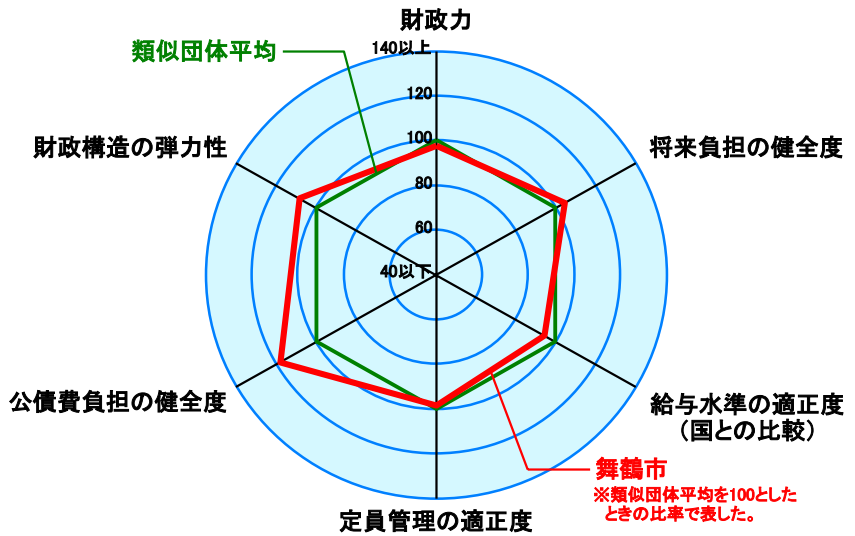
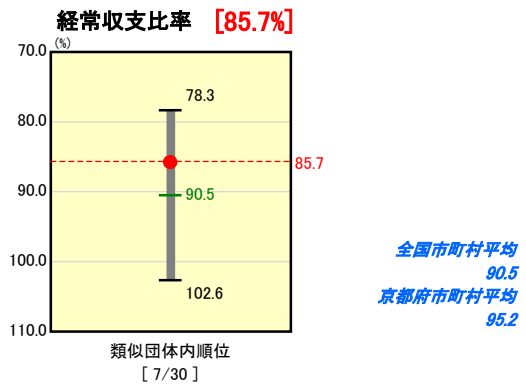
財政力



将来負担の健全度

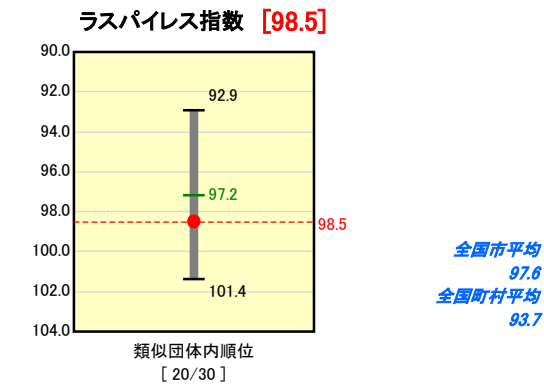


財政構造の弾力性

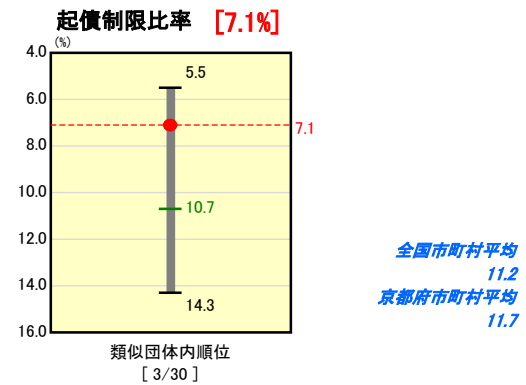


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



分析欄

【財政力指数】
旧軍港都市であった歴史的な背景から、収入では固定資産税や法人市民税収が少なく、需要では老人福祉費や生活保護費が多額であることが類似団体平均を下回る原因になっている。今後は16年度の舞鶴発電所運転開始による税収の増加等により、17年度以降指数の上昇を見込んでいる。

【経常収支比率】
類似団体平均を下回る水準にあるが、義務的経費に加え、保険事業会計など、社会保障費関連の繰出金が年々増加し、比率は上昇傾向にある。今後は、行政改革大綱と集中改革プランに基づき「選択と集中」による事業精査を行い、経常経費の抑制を図る。

【起債制限比率・人口1人あたり地方債現在高】
従来から、事業の精査による起債発行の抑制と、交付税措置のある市債の発行に努めた結果、いずれも類似団体平均を下回る水準にある。今後は建設事業の執行にあたっては、安易に市債に頼ることなく、引き続き厳しい精査・選択に努め、財政負担の健全度を維持する。

【ラスパイレス指数】
類似団体平均を若干超えているが、従来から国家公務員に準拠した給与体系を堅持し、常に総点検・見直しを図ってきたところであり、今後とも給与水準の適正化に努める。

【人口1,000人当たり職員数】
類似団体平均を若干超えているが、総務省の第8次定員モデルを指標とした「舞鶴市定数計画」に基づき、組織改革や事務事業の見直し等を総合的に推進し、適正な定員管理に努める。

定員管理の適正度

